

主日礼拝

2022年02月20日
午前10時30分

前奏 「 () 」

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「ハレルヤ。

わたしたちの神をほめ歌うのはいかに喜ばしく

神への賛美はいかに美しく快いことか。

主はエルサレムを再建し

イスラエルの追いやられた人々を集めてくださる。

打ち砕かれた心の人々を癒し

その傷を包んでくださる。」 (詩編 147: 1~3)

リタニー 「光の子となる」

(「教師の友」2月)

司式者：神さまの言を聞きましょう

会衆：ぐちゃぐちゃの世界に「光あれ」

司式者：イエスさまの御業を見ましょう

会衆：わたしが世の光です

司式者：光が暗闇を覆います

会衆：もう、怖くないよ

司式者：もう、迷わないよ

一同：さあ、光の子として歩みましょう
アーメン

祈禱

献金 献金箱が受付に置いてありますので、
礼拝前にお献げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、

ねがわくは み名をあげめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。

みこころの天になるごとく

地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

聖書 マルコによる福音書 2: 1~12

新約(新共同訳)p63~p64

数日後、イエスが再びカファルナウムに來られると、
家におられることが知れ渡り、大勢の人が集まった
ので、戸口の辺りまですきまもないほどになった。
イエスが御言葉を語っておられると、四人の男が中
風の人を運んで來た。しかし、群衆に阻まれて、イ
エスのもとに連れて行くことができなかったので、
イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、
病人の寝ている床をつり降ろした。イエスはその人
たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの
罪は赦される」と言われた。ところが、そこに律法
学者が数人座っていて、心の中であれこれと考えた。
「この人は、なぜこういうことを口にするのか。神
を冒瀆している。神おひとりのほかに、いったいだ
れが、罪を赦すことができるだろうか。」イエスは、
彼らが心の中で考えていることを、御自分の霊の
力ですぐに知って言われた。「なぜ、そんな考えを
心に抱くのか。中風の人に『あなたの罪は赦される』
と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うの
と、どちらが易しいか。人の子が地上で罪を赦す権
威を持っていることを知らせよう。」そして、中風
の人に言われた。「わたしはあなたに言う。起き上
がり、床を担いで家に帰りなさい。」その人は起き
上がり、すぐに床を担いで、皆の目している前を出て
行った。人々は皆驚き、「このようなことは、今まで
見たことがない」と言って、神を賛美した。

賛美 160(1,4,5)「深き悩みより」

Aus tiefer Not schrei ich zu dir
詞：Martin Luther, 1483-1546

AUS TIEFER NOT
曲：Martin Luther, 1483-1546

1 主よ、おわりのまですべとして
2 ここの世のさかえ目を惑わし、
3 しずかにきよいみこえにより、
4 主はやくそくをかたくもり、

あな なたにつ か え し た が い ま す。
ゆ う わ く の こ え み に み ち て、
お か た り く だ さ い、主 よ、み こ と ば。
お わ り の 日 ま で み ち び か れ る。

世 の た た か い は は げ し く て も、
て き は そ と に も う ち に も あ る。
わ た し は こ こ に ち か い を た て、

主 が み か た な ら お そ れ は な い。
お ま も り く だ さ い、主 よ、わ た し を。
き か せ て く だ さ い、主 よ、み こ え を。
主 よ、お わ り ま で し た が い ま す。

- 1 深き悩みより われはみ名を呼ぶ。主よ、この叫びを聞き取りたまえや。されど、わが罪はきよきみこころにいかで耐えうべき。
- 2 世にある人々 力の限りに、主の道を求め いそしみ励めど 神の恵みに ふさわしき者はただ一人もなし。
- 3 おのれの業には 少しも頼らず、おのれの力に 救いを求めず、疑うことなく 神のみ言葉に 望みをおくのみ。
- 4 朝を待ち望む 見張りにもまして われらはひたすらに 神を待ち望む。疑いの間は いかにも深くともみ力 現れん。
- 5 われらの罪をも すべてつつみたもう 主のいつくしみは 豊かにあふれて、み民のそむきを あがなう牧者の 恵みはつきせじ。

説教 「癒やしへの一步」

賛美 510(1,3,4)「主よ、終わりまで」

O Jesus, I have promised
詞：John E. Bode, 1816-1874

ANGEL'S STORY
曲：Arthur H. Mann, 1850-1929

1 主よ、おわりのまですべとして
2 ここの世のさかえ目を惑わし、
3 しずかにきよいみこえにより、
4 主はやくそくをかたくもり、

あな なたにつ か え し た が い ま す。
ゆ う わ く の こ え み に み ち て、
お か た り く だ さ い、主 よ、み こ と ば。
お わ り の 日 ま で み ち び か れ る。

世 の た た か い は は げ し く て も、
て き は そ と に も う ち に も あ る。
わ た し は こ こ に ち か い を た て、

主 が み か た な ら お そ れ は な い。
お ま も り く だ さ い、主 よ、わ た し を。
き か せ て く だ さ い、主 よ、み こ え を。
主 よ、お わ り ま で し た が い ま す。

- 1 主よ、終わりまで しもべとして あなたに仕え していますが。世のたたかいは はげしくても、主が味方なら 恐れはない。
- 2 この世のさかえ 目を惑わし、誘惑の声 耳に満ちて、敵は外にも 内にもある。お守りください、主よ、私を。
- 3 静かにきよい み声により お語りください、主よ、みことば。心のあらし 吹きあれても、聞かせてください、主よ、み声を。
- 4 主は約束を かく守り、終わりの日まで みちびかれる。私はここに 誓いを立て、主よ、終わりまで していますが。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「 」

()

司式 塩治 みはる
説教 向井 希夫牧師
奏楽 高橋 孝子

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。
※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。